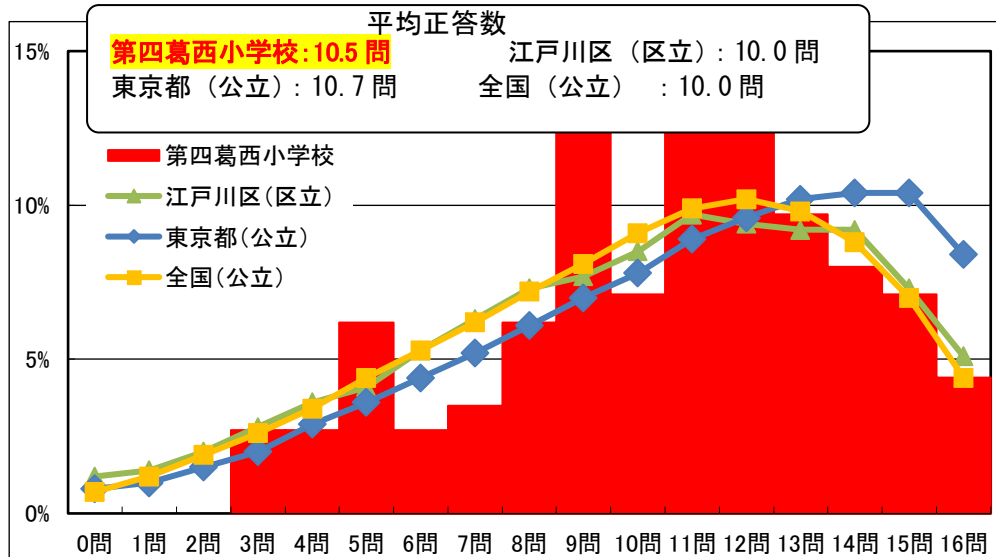


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 第四葛西小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

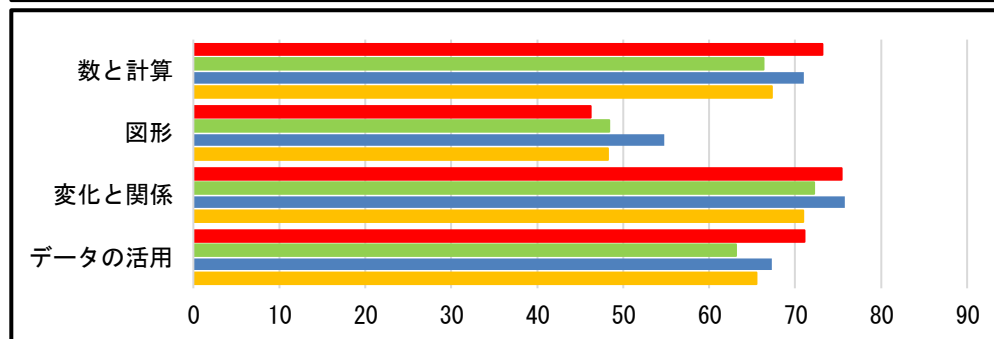
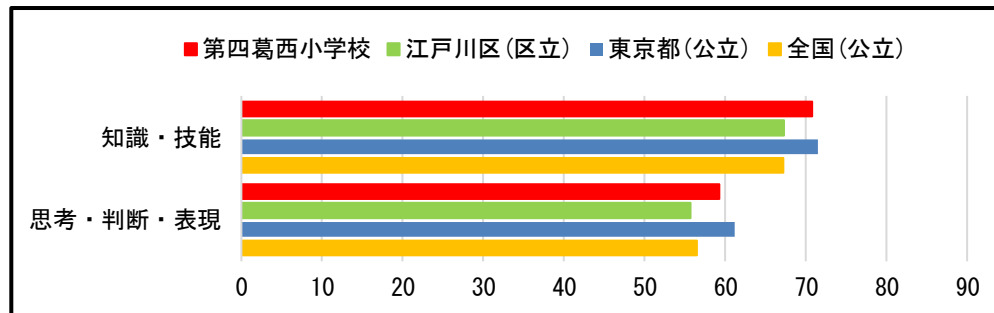
| 算数 | 上位 ← → 下位 | | | |
|----------|--------------|--------------|-------------|------------|
| | A層 14~16問 | B層 11~13問 | C層 8~10問 | D層 0~7問 |
| 第四葛西小学校 | 19.5 | 37.2 | 25.7 | 17.7 |
| 江戸川区(区立) | 21.6 | 28.3 | 23.5 | 26.6 |
| 東京都(公立) | 29.2 | 28.7 | 20.9 | 21.2 |
| 全国(公立) | 20.2 | 29.9 | 24.4 | 25.5 |

【平均正答率の差】

| | |
|----------|--------|
| 第四葛西小学校 | 66% |
| 江戸川区(区立) | 62% |
| 東京都(公立) | 67% |
| 全国(公立) | 62.5% |
| 都との差 | -1ポイント |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

本校の正答数分布は、全国、東京都、江戸川区と比較するとA層とD層の割合が低く、B層とC層の割合が高い傾向がある。特にB層の割合が高く、8から9ポイント上回っている。領域別に見ると、資質・能力において、知識・技能よりも思考・判断・表現の定着に課題が見られる。学習内容別では、数と計算とデータの活用の定着は見られるが、図形には課題が見られる。この結果を受け、思考・判断・表現力の向上を図るため、問題の解法を図、式、言葉を往還して説明すること活動や学習したことを適用する活動を充実させる。また、図形の学習内容を定着させるために、ドリルパークを活用し、基本的な内容から復習するとともに習熟度が低い児童に対しては個別指導を行う。